

楽々通信

第 125 回 NPO 法人楽の会リーラ 月例会

【日時】 2025 年 1 月 25 日 (土) 13 時 30 分～16 時 45 分

【場所】 豊島区立産業振興プラザ IKE・Biz 6 階 多目的ホール

【主催】 NPO 法人楽の会リーラ 【共催】 豊島区

1. 事務局から連絡

2. 来賓挨拶：山川幸宏氏（東京都福祉局生活福祉部生活支援担当課長）R6 ひきこもりに係る支援事業の取組み

3. 基調講演：テーマ：「ひきこもり」が投げかける問い～求められる価値の転換と支援のあり方の変化～

講師 長谷川 俊雄 氏 social work lab MIRAI 代表 白梅学園大学名誉教授

テーマ①ひきこもりの理解について～「社会モデル」の考え方が求められている

●厚労省の指針の変遷

<2001>10 代・20 代中心の地域精神保健活動のガイドライン（ひきこもりはメンタルヘルスに関する問題）

<2010>精神保健・福祉・医療の支援対象としてのひきこもり（医療モデル、診断名と医療施策になっている）

<2025>ひきこもりは社会問題（社会的孤立・社会的排除問題である）→社会モデルによる理解と支援

そのための支援に対するまなざし（価値と倫理）を明確にしたハンドブック。

本人を治そうとする医療モデルから、当事者を取り巻く環境である社会や家族の方が変わっていくこ

と→本人に合った個別最適化、オーダーメイドな支援、社会モデルの理解を普及）

テーマ②ひきこもり支援について～変化が求められている基本的な考え方

【これまでの考え方】

- ・本人がドロップアウト（自己責任）→個人が変わる 本人・家族に努力を求めて社会参加を目指す
- ・単一ゴール（自立：就労と社会参加）
- ・べき・しなければならない（強迫的な考え方）→親子間葛藤・対立の強さ

【新たな考え方】 社会常識や多数派の考えから自由になること。違っている、だから、おもしろい！

- ・社会的包摂（社会的責任）→社会が変わる 社会の努力による社会的包摂へ向けた支援、本人の支援拒否尊重
- ・多様なゴール（自律：社会参加や就労はその人の生き方のプロセスで訪れるもの。安心して生きられることから）
- ・～であっていい（ゆるやかな考え方）→ 家族が孤立せず、自分を癒し、家族自身の気づきを大事にする
- ・行政における家族支援の充実へ（援助技術を学ぶ機会を保障する）

行政シンポジウム「ひきこもり当事者（ご本人・家族）にやさしく、分かりやすい相談サポート」

<自治体の取り組みの特徴>

- 豊島区：広報としま「あなたらしい生き方、応援します」全戸配布。ひきこもりから多様な生きづらさを持っている方まで相談数の増加。ひきこもり情報サイト（閲覧数：月 3000 件）ひきこもり支援協議会の立ち上げ（令和 3 年～）
- 葛飾区：既存の制度の狭間を埋める取組（複合的な課題に対応：高齢者、障害者、子育て、8050、ダブルケアなど）
- 北区：東京都北区ひきこもり支援プラットフォーム（PF）に地域家族会や NPO 法人楽の会リーラも参画。事業受託。
- 墨田区：家族支援・家族の心理的ケアを重視し公認心理師を配置。当事者目線を重視した Web サイト「すみ家」開設
- 東村山市：ひきこもり相談窓口「えん」。どこに相談したらいいかわからない方が必ずつながる相談ネットワーク作り

<文責：運営委員>